

セブンイレブン専用では最大規模

武蔵野

新埼玉工場が竣工

工程管理システム導入 作業効率向上を図る



安田 信行社長



鎌田 靖取締役



安田 定明会長

武蔵野は18日、セブンイレブン専用工場・新埼玉工場（埼玉県朝霞市）の竣工式を行った。同工場は敷地面積7400坪（2万4420㎡）、延べ床面積6800坪（2万2440㎡）と、セブンイレブンの中食工場としては最大規模、最

大生産能力を持つ。生産アイテムはおにぎり、弁当、チルド弁当、チルド寿司、調理パンで、米飯類を中心に生産する。既存の埼玉工場、朝霞工場を統合したもので、新たなカテゴリの生産もできる体制にした。安田信行社長は「安全・

安心して、いかにおいしい食品をお客さまに届けるかを追求すると同時に、従業員の働きやすい環境の整備など未来構想を持った工場を目指していく」と、品質でも労働環境でも最高を目指す挑戦を続けていくと抱負を述べた。

来賓として、鎌田靖セブンイレブン・ジャパン取締役業務執行役員商品本部長は「セブンイレブン1万6500店に160余りの工場でデ일리ー食品を生産して供給している。新埼玉工場は163番目の工場

で、最大規模である」と語り、「2万店舗体制を視野に入れるセブンイレブンは、革新力のある武蔵野にはお客さまに喜ばれる商品開発を期待している」とあいさつした。山口靖農林水産省外食産業室長は「中食産業は8兆〜9兆円まで発展してきており、これからも伸びていくと思う。その中で、CVSは社会のプラットフォームの役割を果たしていくだろう。この工場から、おいしい食事が提供されることを祈念する」と、新埼玉工場の社会的役割の重要性を述べた。

安田定明会長は「セブンイレブンの急激な拡大に対して安定供給を図るため、久しく渴望していた工場が竣工となった。多くの設備・機器メーカーの最新鋭を惜しみなく出していたいたこの工場は、10年後には食品工場の黎明となるだろう」と関係者に感謝の言葉を述べた。

武蔵野はこの4年間で福岡、京都、カマス、東海、そして新埼玉と5工場を稼働している。

新埼玉工場の生産能力は

最大で弁当8ライン、寿司2ライン、おにぎり17ライン、チルドパン7ライン、炊飯84釜×4ライン。同社最大の製造エリアを確保することで、米飯だけでなく、チルド工場として多彩な新規商品の製造を可能としている。

また、工程管理システムの導入で作業効率向上を図り、フードリソース対策としてセキュリティを強化、ガスコーシエネレーションシステム、太陽光発電設備の導入で省エネ化、停電時の一部工場稼働にも対応している。（福島厚子）